

人びとの視点からアフリカの人間の安全保障を捉え直す ——アフリカ5カ国における意識調査結果から

花谷 厚

JICA 緒方貞子平和開発研究所 主任研究員

要旨

人間の安全保障は、人間一人ひとりを守るといった意味で規範的概念であり、その特性により、これまで外交、軍事、開発、人道など異なる領域の人びとが協働するための共通の理念を提供してきた。その一方で、学術・政策論上の分析概念としては不十分であるとして批判の対象にもなってきた。本稿では人間の安全保障を、安全／不安全に関する人びとの意識——将来に対する不安感——の観点から捉えることにより、同概念を分析概念として用いることの可能性について検討した。データとして、アフリカ5カ国の計7,600人を対象とした意識調査結果に基づき算定した人間の安全保障スコアを用いた。分析の結果、人びとの意識から見た人間の安全保障は、①社会内脆弱層とその不安の具体的内容の把握、②尊厳を中心とする人間の安全保障を構成する中心的価値の可視化、③将来リスクに関する主観的情報の把握、の3点において付加価値を持つとともに、危機管理学・防災学のリスク評価の枠組みを援用することにより操作可能性を持つことが明らかになり、分析概念として一定の可能性を持つことが示された。

はじめに

人間の安全保障は、安全保障の対象として人間一人ひとりに焦点を当て、命、生活、尊厳という人間の中心的価値に対する危機（ダウンサイドリスク）の存在を認識するとともに、その危機からの保護とエンパワメントを重視した概念である。人間の安全保障は、人間一人ひとりを守るといった意味で規範的であり、その特性により、外交、軍事、開発、人道など異なる領域の人びとが協働するための共通の理念を提供してきた¹。

その一方で、人間の安全保障は、学術上、政策論上の概念

としては批判も受けてきた（例えば、Owens and Arneil 1999; Suhrke 1999; Paris 2001）。主な批判としては、人間の安全に対する脅威として紛争から感染症まで多様な事象を含むがゆえに、特定の社会、人びとにとっていかなる脅威が最も重要なのか優先順位を付けがたいという問題、人間を取り巻く様々な脅威はどの時点で人びとの安全を脅かす危機となるのか閾値が明確でないという問題、人間の安全／不安全が測定できる形で定義されていないがゆえに、因果関係を明らかにすることができないという問題などが含まれる²。これらの論者によれば、人間の安全保障は、操作可能な分析概念としては「弱い」（Newman 2004）ものと見做されてきた。

これらの批判に対して、人間の安全／不安全の状況を客観的に表すことを意図した指標化の試みも行われてきた。

例えば、King and Murray (2001) は、人間開発指標（Human Development Indicators: HDI）に倣って、「個人の人間の安全保障」（Individual Human Security: IHS）の策定を試みた。

¹ 2005年国連世界サミット成果文書における反映（UN 2005）、国連総会決議の採択（UN 2012）は言うまでもなく、対人地雷禁止条約の締結、国際刑事裁判所の創設は人間の安全保障の名の下に推進された（栗栖 2009）。国際機関においては、欧州連合（EU）が人間の安全保障ドクトリンを2004年に採用した他（Study Group on Europe's Security Capabilities 2004）、アフリカ大陸の地域機構であるアフリカ連合（AU）設立の背景にも人間の安全保障の影響が認められる（花谷 2022）。

² これらの批判を含む文献レビュー論文として、Tadjbakhsh and Cheney 2006; Muguruza 2007; Fukuda-Parr and Messineo 2012; Gasper and Gomez 2015; Newman 2016 などがある。

本レポートで述べられている見解は執筆者個人の見解であり、JICA や JICA 緒方研究所としての見解を示すものではありません。

同研究では、人間の安全保障の定義として、人びとが将来「一般貧困」(generalized poverty)³の状態を経験しないですむ年数の期待値とし、その平均値をその国のIHSとすることを主張した。

Owen (2004)も同様に、人間の安全保障に閾値を設けることを目的に、脅威を「人間の中心的価値を脅かす重大かつ広範な」ものに限定し、それに影響する要因を特定することを提案した。さらに、評価の対象を一国レベルではなく、ローカルレベルに置くべきと主張し、実際にカンボジアの1600のコミュニティ(地方自治体)を対象に、地域ごとの人間の安全保障の状況を明らかにした(Owen and Benini 2004)。

これらの試みは、一定の閾値を設定することにより人間の安全保障の定量化、操作化を試みたという意味で重要な試みである。しかし、何を安全/不安全の構成要素と見做すかについては論者の間で見解が異なる上に、指標が結局は国家のパフォーマンスを表すものとなっているとの批判もあり(Homolar 2015)、これらの指標化、定量化の試みはその後広がりを見せているとは言い難い。この概念上の操作可能性の難しさもあって、政策実践面における人間の安全保障の活用には限界があった(日本の例については、柳原 2019 参照⁴)。

今日、ロシアによるウクライナ侵攻などにより国家レベルの安全保障が再び注目されるとともに、感染症や気候変動などにより我々の生活は複合的な危機に晒されている。これらの複合危機の経験は、人間の危機への脆弱性や取り得る対応能力が、人びとの置かれている社会・経済構造に深く根差していることを再認識させた(Abello-Colak 2021; Umukoro 2021)。これらは正に従来人間の安全保障が主張してきたことであり、人間の安全保障の規範的概念としての価値には近年改めて注目が集まっているところである(Newman 2022; UNDP 2022; JICA 2022)。

このように人間の安全保障に改めて注目が集まる今日、人間の安全保障の有用性をさらに一歩進め、具体的な政策分析や政策策定に用いられるようにするのはどのようにしたらよいだろうか。この点に関し人間の安全保障概念を批判したParis (2001)は、人間の安全保障が政策論として有効であ

るためには、特定の問題に対して独自の解決策を提示する必要がある、また政策分析概念として有効であるためには、人間の安全保障が測定され、因果関係の回路が明確化される、すなわち操作可能性を持つ必要があるとした。果たして人間の安全保障概念は、これらの特性を持ちうるだろうか。

本稿では、人間の安全保障が政策論や政策分析概念としての特性を持ちうるかという問題に対して、個々人の安全/不安全に対する意識を通じてアプローチする。人間の安全保障を人びとの意識を通じて捉えるという考え方の背景には、人間の安全保障は所得水準や犯罪件数だけでは測定できず、究極のところ「人は何によって安全、不安全を感じるか」(what makes people feel secure and insecure) (Glasius 2008, 37)を問うことによってしか明らかにし得ない、との理解がある。

実際、人間の安全保障における人びとの意識の重要性については、最初に人間の安全保障概念が提唱された1994年の人間開発報告書(UNDP 1994)(以下、HDR1994)の第2章に、“Human Security — as people see it”(人びとの視点から見た人間の安全保障)と題したコラムが含まれていることから伺える(前掲書, 23)。さらに、同じ国連開発計画(UNDP)による2022年の人間開発報告書特別報告書(UNDP 2022)では、レポートの冒頭今日の世界状況を表現する中で、「人々の心のなかに、自らの安全が脅かされているのではないかという不安感(=人間の安全保障の喪失感)」があるとし、人間の安全保障を人びとの意識の側面から表現しようとしている。このような人びとの意識を通じた人間の安全保障へのアプローチの重要性は、Jolly and Ray (2006)、Glasius (2008)、栗栖 (2009)、Mine and Gomez (2013)、Gomez et al. (2013)、de Simone (2020)などにおいても指摘されてきたところである。

本稿では人間の安全保障概念を、開発に関わる政策論⁵や政策分析概念(ここでは両者合わせて政策ツールと呼ぶ)として用いることは可能かという問題意識に基づき、その問いに対する一つの試みとして、人間の安全保障を安全/不安全に関する人びとの意識——将来に対する不安感——の観点から捉えてみたい。そしてそこから得られる情報が、政策論の視点からいかなる付加価値を持つのかについて考察するとともに、人間の安全保障概念の操作化に向けて安全/不安全意識の背景要因を探って行く。

³ なお、ここで言う一般貧困とは、所得、健康、教育、政治的自由を含むウェルビーイング要素について、一定の閾値を下回る状態を指すものである。

⁴ 柳原は、人間の安全保障概念が日本の開発援助の実地活動には有意な影響を及ぼさなかった理由として、日本の援助実施体制の問題に注目しているが、その背景には概念として操作可能性の難しさがあったものと読むことも可能である。

⁵ 本稿では断りのない限り、政策論を途上国開発に関わるものと理解する。

検討の材料としては、2021年から22年にかけてアフリカの社会調査ネットワークであるアフロバロメーター (Afrobarometer 以下、AB) が第9回定期調査 (Round 9) を実施したのに合わせて、JICAが一部質問項目を追加して委託したアフリカ5カ国 (チュニジア、ナイジェリア、ケニア、ガボン、アンゴラ) における意識調査の結果を用いる。

次の第1節では政策論の観点から人間の安全保障に人びとの意識の側面からアプローチした先事例を振り返り、その成果と課題を明らかにするとともに、本稿における問いを提示する。第2節ではデータの概要と分析の方法論を示す。第3節では分析結果を、第4節では分析結果に基づく考察を示し、最後の第5節で人びとの意識を通じた人間の安全保障への接近が持つ可能性と限界、政策的含意を示す。

1. 意識からの人間の安全保障への接近事例

人間の安全保障概念を政策ツールとして活用するにあたり、人の意識に注目することの意義とは何だろうか。

人間の安全保障は人間一人ひとりの安全／不安全を問題にしているのであるから、その究極の目的は彼ら／彼女らを取り巻く脅威の軽減である。しかし、人間を取り巻く状況は、年齢、ジェンダー、居住地などの個人および個人の属する集団の属性や置かれた環境によって異なる。人びとを取り巻く自然災害リスクの評価とそれへの対応を取り扱う防災学においても、脅威から影響を受ける度合は、個々人の教育水準、所得水準、利用可能な保護や社会的ネットワークなどを含む脆弱性の高低によって異なるとされる (例えば、UNDRR 2022)。人間の安全／不安全の問題を一人ひとりの置かれた状況——文脈——に即して考えるのが人間の安全保障概念の特性の一つであるならば、安全／不安全に関する意識を (それを最も直接的に意識しているであろう) 個人に問うことは、その概念の特性上、一定の意義があるものと考えられる⁶。

もう一つ重要な点は、人間の安全保障概念が重視する3つの中心的価値の一つである尊厳を視野に含めることができることである。同概念に含まれる3つの中心的価値のうち命と生活は、平均余命、保健、所得などに関わる客観的指標

⁶ 個人の意識から安全／不安全にアプローチする手法は、犯罪学における市民安全学 (citizen security) において先行的に採用されている (例えば、Stevens and Vaughan-Williams 2016)。

による評価が比較的容易であるのに対し、尊厳は数値化し測定することが難しい。これは尊厳が多分に主観的なものであることに由来する⁷ (高須・峯 2022, 15–24)。このため上で見た過去の指標化の試みにおいても、尊厳の側面は明示的に取り扱われては来なかった。しかしもし、人びとの尊厳が脅かされているか否かを人びとの意識から観測し、それを分析の対象に含めることができるのであれば、人間の安全保障を人間の中心的価値に焦点を当てたものにするに際していささかの前進となるだろう。

実際、人間の安全保障を人びとの意識の観点から明らかにしようとする試みは、これまでも行われてきた。ここでは、Jolly and Ray (2006)、Gomez et al. (2013) において、過去に国別の人間開発報告書 (National Human Development Report: NHDR) において意識の面から人間の安全保障に接近した限られた事例として挙げられるラトビアおよびベナンの NHDR、ならびに近年日本の地方自治体を対象に、意識調査結果を含めて人間の安全保障の指標化を試みた事例 (「人間の安全保障」フォーラム・高須 2019; 高須・峯 2022) を取り上げ、本稿における分析への含意を探る。

1.1. ラトビアの2003年版 NHDR

2003年版のラトビアの NHDR では、人の安心感に影響を与える客観的・主観的な要因を統合した「安全確保可能性」 (securitability) という概念を用いて、同国の人間の安全保障の状況を評価した。同概念は、本報告書で独自に開発されたものであり、「不安な状況を回避し、不安な状況が発生しても安心感を保つことができる能力、また、不安や安心感が損なわれても、再び安心感を取り戻すことができる能力」 (UNDP Latvia 2003, 15) と定義される⁸。

本報告書では、国民の安全確保可能性を判断するにあたり、個人の「安全に関する認識」 (sense of security) を把握するために、無作為に選ばれた成人 1,000 人を対象とする質問票調査、およびその一部に対する記述式調査が行われた。

⁷ ここでは尊厳を、高須・峯 (2022) に従い、「人間ひとりひとりが自分に対して持つ誇り」と理解する。同書では、人が自分に対して誇りを持つためには、他者から適切な敬意をもって扱われること、地域社会の連帯、民主的な制度への信頼が重要であるとする。

⁸ 例として、「安全確保可能性」の高い人は、迫りくる危険を早期に察知し、危険を回避しないしは危険から自身を守ることができるとともに、危険に襲われた場合も影響を緩和し、早期に安全な状態に戻ることができる。逆に「安全確保可能性」の低い人は、これらの能力に欠けるため、恒常的な不安に苛まれることになる (UNDP Latvia 2003, 13)。

質問票調査では、回答者が不安の原因として認識しているもの、安心感をもたらす状況、関係、制度、行動、戦略について聞いている。また、記述式調査では回答者に極度の不安を与える可能性が最も高い要因について聞いている。

報告書では、主にこの意識調査結果に基づき、HDR1994で挙げられた7分野ごとの安全認識、ハイリスクグループ(低所得者層、女性、健康不安を抱える人など)の不安とその背景要因、安全確保可能性に影響を与える要因としての個人の特性、集団との関係、国家への信頼について分析した。結論として、ラトビア国民の安全確保可能性に影響を及ぼす要因(securitability factors)として、①個人の特性(生への満足度、変化を起こすことができるという自信、自尊心、健康、信仰、集団への帰属意識)、②家族との関係、③経済的安定性、④社会的ネットワーク構築の可能性、⑤政府、国際社会への信頼、の5つを抽出している。

報告書では、人間の安全保障に影響を与える複雑な要因について意識調査結果に基づく詳細な分析が随所に見られ、女性、低所得者層など弱者グループについても属性毎の分析を行っている。

1.2. ベナンの2010/11年および2016年版NHDR

2010/11年および2016年のベナンのNHDR(Gouvernement du Bénin et PNUD 2011; 2016)では、人びとが何にどの程度の脅威を感じているかを表す「人間安全指標」(Human Safety Index: HSI)を作成して同国内の人間の安全保障の状況を把握することを試みた。同報告書では、全国77の自治体(コミュン)の約17,000世帯を対象にして行われた意識調査を通じて、HDR1994で挙げられた7つの脅威分野について設定された88の具体的な項目に対して、調査対象者の感じる脅威の程度を聞いている。調査対象者が、ある脅威項目に対して3以上の評価を選択した場合(最も弱い1～最も強い4)、その世帯はその脅威に対して不安な状況であると仮定され、脅威項目別にそのように回答した世帯の割合がHSIとして示される。すなわち、HSIが高ければ高いほど、ある脅威項目に対してより多くの人が不安を感じていることになる。

報告書では、88の脅威項目のうち特に不安感の高かった21の脅威項目が選ばれるとともに、回答結果をジェンダー、所得水準、教育水準、居住地間で比較し、属性ごとのHSI状況を把握している。さらに、自治体ごとのHSIを各地域の人間開発指標(HDI)と比較し、相互の関係を明らかにすることを試みた。分析の結果、ベナンにおける人間開発は、

人間の安全保障を体系的に伴っていないこと、HDIを向上させるという意味での人間開発は、人間の安全保障を確保するために必要条件であるが、十分条件ではないことを指摘している。

ベナンでは、同手法を経時的にモニタリングすることを意図し、2015年に2010年と同様の手法で行った意識調査結果を用いて2016年版のNHDRを作成している。同報告書によれば、ベナン国全体のHSIは、2010年の0.746から2015年の0.797と悪化していることが報告されている。

ベナンのNHDRでは、人びとの認識する脅威に焦点を絞って意識調査を行い、人びとの感じる不安の対象としての脅威の具体的内容を把握するとともに、HDIと比較することによって、人間の安全保障と人間開発との相互補完性を追求している。

1.3. 日本の取り組み

日本のNPO法人「人間の安全保障」フォーラムは、2019年に日本の各都道府県を対象とした人間の安全保障指標(以下、HS指標)を表した「SDGsと日本」(「人間の安全保障」フォーラム・高須2019)を、また2022年には、宮城県内の各自治体に焦点を当てたHS指標を表した「SDGsと地域社会」(高須・峯2022)を発表している。

これらの報告書では、SDGsを含む国連のアジェンダ2030が掲げる「誰も取り残されない社会」を実現するには、「その目標から最も遠ざかった人びとから出発する」(前掲書、9)必要があるとの問題意識から、誰がどこでどのように取り残されているのか、取り残されそうなのかを明らかにしようとする。そのために、人びとの暮らす地方自治体レベルに焦点を当てて、人間の安全保障が重視する人間の中心的価値である、命、生活、尊厳の3領域に関わるデータを用いてHS指標を作成した。同指標には、都道府県別ないしは宮城県内の自治体別の客観データが用いられるとともに、尊厳指標に関しては自分の人生への満足度や将来に向けての展望、他者との連帯感についての意識調査の結果が反映されている⁹。データや調査結果はHDIに倣った手法により指数化され、一番望ましい状態が1、その逆の状態が0として位置付けられる。

⁹ 命指標としては生命、健康に関する指標、生活指標としては経済状況、雇用、教育、福祉、生活習慣、環境、防災・安全に関する指標、尊厳指標としては子どもと女性、公への信頼、地域社会、連帯感、国際性、満足度等に関する指標が取り上げられている。なお、「SDGsと日本」、「SDGsと地域社会」の間では対象となった個別指標に多少の異同がある。

データの分析により、各自治体の人間の安全保障の達成状況が、命、生活、尊厳の3つの領域、ならびに主観的な社会的連携、自己充足度を加えた計5つの領域別にランキング化され、指数チャートや地図を用いて視覚的に示される。地域別比較に加えて、子ども、女性、若者、高齢者、障がい者、(東日本大震災の)被災者など、個人の属性毎の状況や課題についても分析されている。

「人間の安全保障」フォーラムによるHS指標による各自治体の評価は、SDGsの精神を誰も取り残されない包摂的な社会づくりであると認識した上で、そのような社会を実現する上で不可欠な社会内で最も脆弱な立場に置かれた人びとや地域における優先課題を明らかにすることを目指している。本稿の観点からその特徴をあげるとすれば、HDR1994に示された脅威の7領域ではなく、人間の安全保障が守ろうとする3つの中心的価値に焦点を当てていること、一国全体ではなく地方自治体に焦点を当てていること、そして客観データだけでなく特に尊厳に関する人びとの意識にも注目し、両者を統合して評価していることなどが指摘できる。

1.4. 本稿における問い

以上見てきたように人間の安全保障を政策論として用いる試みにおいて、人間の意識に接近する取り組みはこれまでも行われてきた。それらは人びとの意識から見た脅威と対応能力双方に注目したもの(ラトビア)、脅威を感じる対象に注目したもの(ベナン)、脆弱層を明らかにすることに注目したもの(日本)と目的と対象は異なるが、いずれも人間の安全保障を人びとの意識から見た安全/不安全に関する現状として把握し、政策に反映するという意図の下に行われたものであるといえよう。ベナンの事例に見られたように、意識調査の結果をHDIを含む客観指標と比較することにより、マクロな数値だけでは見えてこない、地域別、属性別の安全/不安全状況や課題を明らかにすることが可能になる点も重要である。

これらを踏まえ、本稿においても、人間の安全保障を人びとの意識を通じて捉えることにより、同概念を政策ツールとして用いることの可能性を探ってみたい。そのためには、前述のとおり政策論としての独自性を有することを明らかにするとともに、分析概念としての分解可能性を明らかにすることが必要となる。この観点から本稿においては、人びとの持つ安全/不安全意识を把握、分析することは、政策論の観点からいかなる付加価値を持ちうるのか、そして安全/不安全意识の背後にはいかなる要因が関係しているのか、を問うことになる。

2. 調査・データの概要と分析の方法論

ここでは本稿で用いるデータを収集した調査の概要、回答者の属性、分析に当たっての方法論を示す。

2.1. 調査の概要

本稿で用いるデータは、アフリカの社会調査ネットワーク組織であるABが1999年から行っているアフリカ各国¹⁰の社会・政治・経済状況に関する国民意識に関する定点観測調査の第9ラウンド(2021/2022年)により収集されたものである。ただし、本稿で対象とする5カ国については、JICAとの契約に基づき、ABがアフリカ各国で用いる共通調査票に人間の安全保障とCOVID-19に関する質問を追加して、他国とは若干異なる内容で調査を実施した。

JICA調査の対象国は、アフリカ大陸の5つの地理的ゾーン(北部、西部、東部、中部、南部)と言語の多様性(アラビア語、英語、フランス語、ポルトガル語)を代表することに加えて、期間内での調査実施可能性を条件として選定した。最終的には、チュニジア(北部)、ナイジェリア(西部)、ケニア(東部)、ガボン(中部)、アンゴラ(南部)の5カ国が対象となった。

サンプルサイズは、各国の国勢調査台帳を基とし、信頼度95%区間において±2.5%ポイントの誤差を想定して設定された。さらに対象社会の主要属性(都市/農村、ジェンダー、教育水準、宗教、貧困レベル、年齢階層、エスニック集団、雇用の有無)を考慮した層化無作為抽出法を用いてサンプルを割り当てた。コロナ下の調査ではあったが、調査は全て対面インタビューによって行われており、言語については、現地語を含む複数の調査票を用意し、回答者の選択する言語による回答を得た。

調査対象国、調査実施時期、サンプルサイズは表1のとおりである。

2.2. 回答者の属性

各国調査の結果得られた回答者の属性は表2のとおりである。

ここで居住地の都市、農村の別は、各国の統計局が人口統

¹⁰ 第9ラウンドまでに対象となった国は合計39カ国である(Afrobarometer 2022)。

表1 調査の概要

地域	対象国	調査実施時期	サンプルサイズ
東部	ケニア	2021年11月	2,400
中部	ガボン	2021年11月	1,200
北部	チュニジア	2022年2月	1,200
南部	アンゴラ	2022年2月	1,200
西部	ナイジェリア	2022年3月	1,600

出典：Afrobarometer 2022 に基づき筆者作成

表2 回答者の属性

属性	属性内訳	アンゴラ	ガボン	ケニア	ナイジェリア	チュニジア
居住地	都市	65%	86%	34%	43%	68%
	農村	35%	14%	66%	57%	32%
ジェンダー	男性	50%	50%	50%	50%	50%
	女性	50%	50%	50%	50%	50%
年齢階層	18-25歳	35%	20%	29%	27%	13%
	26-35歳	33%	31%	27%	33%	21%
	36-45歳	17%	26%	16%	22%	22%
	46-55歳	9%	13%	13%	10%	17%
	56歳以上	6%	9%	15%	8%	27%
最終学歴	正規教育なし	14%	13%	4%	17%	9%
	初等教育のみ	29%		33%	17%	34%
	中等教育のみ	43%	46%	41%	43%	35%
	中等後教育	12%	41%	22%	23%	21%
生活貧困度	無	4%	21%	5%	8%	20%
	低	19%		36%	21%	39%
	中	34%	43%	37%	31%	30%
	高	44%	36%	22%	31%	11%

(注) 上記数字は回答者の割合を示す。小数点一位で四捨五入しており、合計が100%にならないこともある。ガボンの教育、生活貧困度では、一部の結果が合計して報告されている。

出典：Afrobarometer 2022 に基づき筆者作成

計や家計調査を実施する際に用いる定義を踏襲している。おおよその目安としては、アンゴラ、ガボン、ケニアにおいては人口2,000人以上、ナイジェリアでは人口20,000人以上の集落が都市とされる。ただし、チュニジアでは人口規模に拠らず、行政区分上の“municipalités”が都市として扱われている。

生活貧困度（Lived Poverty Index: LPI）とは、質問票調査において回答者から所得・消費に関する情報が得られにくいという状況の中で、ABが独自に開発した回答者の主観的認識に基づく対象世帯の貧困度を示す指標であり、これまでのABの累次調査でも用いられてきたものである。

この指標は、人びとが過去1年の間に、食料、水、医薬品／医療、燃料、現金収入を含む基本的な生活必需品が不足する事態に陥った頻度を測定するものである。LPIの評価は0から3の間の4段階でなされ、数字が大きくなればなるほど不足を経験する頻度が高い、すなわち貧困度が高いと理解される¹¹。

表2に基づき、属性別、国別の特徴を整理しておく。まず居住地別では、ガボンの都市居住者が85%を超えているのが特徴的である。これに60%台のアンゴラとチュニジアが続く。ケニアとナイジェリアでは農村居住者の割合が過半数を超えている。

年齢階層別にみると、18-25歳の若年層はアンゴラで最も高く35%を記録しており、これにケニア、ナイジェリアが続く。これに対しチュニジアでは13%と最も低い。56歳以上の高齢者層では、チュニジアの27%が最も高く、これに15%のケニアが続く。他の3カ国では10%以下である。

教育レベルについては、アンゴラ、ガボン、ケニア、ナイジェリアとも最終学歴として中等教育とする回答者が40%以上あるが、チュニジアでは35%と若干低い。チュニジアにおいては、初等教育を最終学歴とする回答者も34%と他国と比べて最も高い。中等後の教育終了者はガボンで41%と最も高い。

生活貧困度で見る貧困状況については、生活必需品を得られなかった経験がない、または一度か二度とする回答者、すなわち貧困を経験することの低い回答者は、チュニジアで59%と最も高く、これにケニアの41%、ナイジェリアの30%が続く。一方、貧困を経験する頻度が高いとする回答者は、アンゴラで44%と最も高く、これにガボン36%、ナイジェリアが31%で続く。同じ数字は、ケニアでは22%、チュニジアでは11%となり、対象5カ国のうち特にチュニジア、ケニアの貧困度は低くなっている。

¹¹ 具体的な質問は以下のとおり。「過去1年間で、あなたやあなたの家族が以下の生活必需品（食べるのに十分な食料、家庭で使用する十分な清潔な水、医薬品または医療、料理のための十分な燃料、現金収入の5項目）を得られなかったことがあるとすれば、それはどれくらいの頻度ですか?」。回答は、「不足を経験したことがない」、「一度か二度だけ」、「何度か」、「何度も」、「常に」の5段階の中から選択する。それぞれの回答者について、5つの質問の回答の平均値を求め、それをLPIと呼ぶ。LPIスコアは0～3の4段階（0点台：生活貧困なし、1点台：低レベルの生活貧困、2点台：中程度の生活貧困、3点台以上：高レベルの生活困窮（基本的な生活必需品すべてが常に不足している状態））に分けて評価され、LPIが高くなるほど、当該回答者の貧困レベルは上がる。

2.3. 分析の方法論

分析は二つの角度から行った¹²。一つは、人間の安全保障を人びとの安全／不安全意識に基づきスコア化し、明示化する試みであり、もう一つは、人びとの安全／不安全に関する意識が何に基づくものなのか、その背景要因を探ることを意図とした分析である。

2.3.1. 人間の安全保障スコアによる評価

この分析では、どのような属性を持つ回答者が、（人間の安全保障を構成する）どの価値に対して安全／不安全を感じているかを把握することを試み、それを人間の安全保障スコア（以下、HSスコア）として表した。

具体的には、「人間の安全保障」フォーラム・高須（2019）、高須・峯（2022）を参考に、人間の安全保障概念が重視する命、生活、尊厳の3要素を対象とし、ABの質問票の中から、各要素に関連する分野——例えば、命であれば生命や健康——に関する質問78を選び出した。これらの関連および関連する質問数は表3のとおりである¹³。

これらの質問に対する回答は、頻度や程度を回答するカテゴリ変数で得られていることから、一定の閾値で切って人間の安全保障に最も強く正の相関があると思われる回答を1、そうでない回答を0とする二値変数とした。例えば、命—生命に関連する質問として、“Over the past year, how often, if ever, have you or anyone in your family felt unsafe walking in your neighbourhood?（過去1年間で、あなた又はあなたの家族の誰かが、近所を歩くのに危険を感じたことがありますか）”という質問に対し、“Never（全くない）”と安全に対してポジティブな回答をした場合を1、それ以外を答えた場合を0とする。このようにして、命、生活、尊厳に分類した質問の回答をすべて二値変数化し¹⁴、それらを合計した数をその人の人間のHSスコアとする。このHSスコアを、国別、主要素別、各属性別に比較し、その特徴を明らかにすることによりHSスコアとして表された人間の安全保障の持つ付加価値を探る。

¹² 今回用いたデータの分析に当たっては、（株）メトリクスワーク コンサルタントの吉川香菜子氏の支援を受けた。記して感謝したい。

¹³ 具体的質問内容については、本稿のAppendixを参照のこと。

¹⁴ 教育水準を除く。教育水準については元々9段階に分かれていたのを4段階（0：初等教育未満、1：初等教育修了、2：中等教育修了、3：中等教育以上）に統合し、最大3を取る変数として評価した。

表3 AB調査に含まれる質問の分類

主要素	関連分野	関連質問数
命	生命	9
	健康	1
生活	経済、労働、仕事	6
	教育	3
	福祉	6
	生活環境、自然環境	8
尊厳	子どもと女性	11
	公への信頼、政治・言論の自由	18
	共同体、市民的関与、国際社会	13
	自己充足	3
合計		78

出典：筆者作成

2.3.2. 安全／不安全意识の背景要因を探るための分析

ここでは人びとの安全／不安全意识に影響を与える主要因を探索するにあたり、防災学や危機管理学における災害リスク評価の枠組みを参照する。その理由としては、(人間の安全保障を含む)安全保障研究は、防災学を含む危機管理学と高い親和性を有していると考えるからである。例えば、安全保障論の観点から加藤(1999)は「危機管理とは安全保障の別の表現に過ぎない」としている他、人間の安全保障の操作概念化を試みたBusumtwi-Sam(2008)も「人間の安全保障の実践は、実際のところ、危機管理の一形態である」としている。

一般に自然災害、防災の分野では、災害リスク(災害により人や資産が損害を被る蓋然性)は、危険源(hazard)、曝露(exposure)、脆弱性(vulnerability)の関数によって決まるとされる(UNDRR 2022)。ここで危険源とは、被害をもたらす可能性のある自然現象や人間の行為の物理的規模や頻度を意味し、曝露とは危険源により損失を被る可能性がある地域に存在する人口や資産の規模(全体に対する割合)を指す。脆弱性とは危険源による被害を受けやすくするような個人や社会、経済や物理的特性を意味する(前掲書)。しかし、危険源が人間にとって実際に危険なものとなるには、人との接触、すなわち曝露があることが前提となるため、危険源と曝露をあわせて脅威度として評価する考え方もある。例えば、自然災害分野における各国の災害リスク評価を行うWorld Risk Reportでは、各国の自然災害リスクの程度を表すWorldRiskIndex(WRI)を、曝露と脆弱性の乗数の平方根と

して表しており、ここで危険源は曝露の一部として評価されている¹⁵。

Busumtwi-Sam(2008)は、人間の安全保障の実践は危機管理であるとみなし、人間の安全保障の中心的価値である尊厳、健康、生計などに対して影響を与える要素として、脅威と脆弱性を取り上げた。ここで脅威は「有害な被害をもたらす偶発事象が発生する確率」を言い、脆弱性は「ある脅威から被害を受ける確率」を意味する。同論者によれば、脆弱性はさらに、貧困、格差、差別などを含む政治、社会、経済上の構造である「剥奪と排除」(deprivations and exclusions)により媒介、条件付けられるものとするが、これらは(将来ではなく)現在における制約条件であり、可能性の問題としての人間の安全／不安全に直接影響を与える主要な要因としては、あくまでも脅威と脆弱性に焦点を当てている。

上記より、人びとの安全／不安全に関する意識に影響を与える要因を探索するにあたり、各枠組みで共通認識の見られる脅威(意識)と脆弱性(意識)を説明変数として措置し、これらと被説明変数として設定した質問の回答を回帰分析することにより、人びとの安全／不安全意识の背景要因を探ることとしたい。

具体的には、被説明変数として安全／不安全に関する意識

¹⁵ WRIでは、危険源は、災害事象ごとの強度と頻度に応じた曝露人口の算出を通じて、曝露評価の一部として扱われている(IFHV 2022)。この例に倣えば、危険源(物理的規模、頻度)と曝露(空間的影響範囲)は、両者合わさって災害の脅威度を示すものと考えられる。

を問う質問として、ABの質問票にある“Q3. Would you say that the country is going in the wrong direction or going in the right direction?”（あなたの国は間違った方向に進んでいると思いますか、それとも正しい方向に進んでいると思いますか）を選んだ。安全保障分野において安全とその対立概念としての危機が「獲得した価値に対する損害の蓋然性の高低」（加藤 1999）と定義されているように、安全／不安全に関する意識は、現在の状況が悪化するのではないかという将来に対する不安に根差している¹⁶。その意味で所属する社会の将来の状況について聞いたこの質問は、回答者の安全／不安全に関する意識を表すのに適切と考えた。回答の処理に当たっては、“Going in the right direction”と回答したものを1、それ以外の回答をしたもの（“Going in the wrong direction”ならびに“don't know”）を0として二値変数化した。

説明変数としては、まず回答者の脅威に関する意識を聞いている質問を31選んだ¹⁷。これらの質問に対して、「全く危険を感じない」など、安全に対してポジティブな回答を1、それ以外の回答を0として二値変数化した。

もう一つの説明変数である脆弱性に関しては、UNDRR、WRIならびにBusumtwi-Sam（2008）を参考に、①感度（sensitivity）、②対応能力（coping capacity）、③剥奪（deprivation）の3つに分解し、これらに関連する質問を37取り上げた¹⁸。ここで感度とは、（発生前の）脅威からの影響の受けやすさを表し、対応能力とは（発生後の）脅威からの回復可能性を意味する。剥奪とは、感度と対応能力に影響を与える構造的要因であり、貧困や格差などの経済的な剥奪状況だけでなく、政治的自由や差別など、政治、社会的な抑圧や排除をも意味

するものと理解される。ここではABの質問票の制約から、政治・言論に関する自由についての質問を選んだ。別言すれば、感度は脅威に対する事前（ex-ante）の脆弱性、対応能力は事後（ex-post）の脆弱性、剥奪は構造的（structural）な脆弱性を意味する。回答については、上記同様ポジティブな回答を1、そうでないものを0として二値変数化した。

コントロール変数としては、年齢、ジェンダー、居住地、教育（最終学歴）、生活貧困度をダミー変数化して回帰分析に投入した。

3. 分析結果

ここでは上記方法論に基づく分析を行った結果に基づき、3要素合計ならびに各要素別HSスコアの国間ならびに主要属性間比較、人びとの安全／不安全認識に関する回帰分析の結果の概要について記述する。

3.1. HSスコアの国別比較

3要素に振り分けた質問は78あるため、すべての質問について値1をとった回答者のHSスコアは78点となる。前述のとおり、各質問に対して安全／不安全の観点から肯定的、すなわち安全認識が高いと読み取れる回答を1としているため、点数が高いほど、安全に対して正の状況と認識していると解釈する。

二値変数化した命・生活・尊厳すべてのHSスコアを5カ国合計すると表4のとおりとなり、最小値が1、最大値が65、平均が17となる。国別に見ると、平均値ではチュニジア、ケニアが19点台と突出して高く、次いでアンゴラが15点台、ガボンとナイジェリアは13点台と最も低い値を示す。

次にHSスコアを命、生活、尊厳の3要素に分解し、これらを国別に比較する（図1）。これを見ると、命スコアにおいてはチュニジアが突出して高いが、他の2要素においてはケニアとの差はなく、生活スコアにおいてはむしろケニアの方が高い値を示す。命スコアではナイジェリアが最も低く、生活スコアではアンゴラが、尊厳スコアではガボンが最も低い値を示す¹⁹。

¹⁶ HDR1994において人びとの視点から見た人間の安全保障を説明するにあたって、「自分と家族の食べ物は十分にあるだろうか。職を失うことはないだろうか。圧政的な政府に拷問されないだろうか」と表現していることからわかるように、将来における不安として説明している（UNDP 1994, 22）。

¹⁷ 例えば、命に対する脅威に関する質問としては、「過去一年間で、あなたないしはあなたの家族が近所を歩くのに危険を感じましたか」、生活に関する質問としては、「現在の経済状況は12か月前と比べてどのように変化していますか」、尊厳に関する質問としては、「あなたは法の下に平等に扱われていると思いますか」等の質問が含まれる。

¹⁸ 一例を挙げると、感度に関する質問としては、「あなたは政府が経済運営／雇用創出／治安維持等について適切に対処していると思いますか」、対処能力に関しては、「あなたは他者に対して信頼をしていますか」、「あなたは現金収入のある職業に就いていますか」、そして剥奪に関しては、「あなたの国は自由だと思いますか」、「あなたの国のメディアは政府からの介入なしに自由に報道することができていると思いますか」等を選んだ。

¹⁹ 各要素における質問数が異なるため、ここでは要素毎の平均値を比べることはできないことに留意が必要。

表4 3要素合計 HS スコアの記述統計

(5カ国合計)	サンプルサイズ	平均値	標準偏差	最小値	最大値
3要素合計 HS スコア	7,600	16.60553	6.928577	1	65
(国別)	サンプルサイズ	平均値	標準偏差	最小値	最大値
アンゴラ	1,200	15.15833	6.402923	1	48
ガボン	1,200	13.8475	5.715021	2	59
ケニア	2,400	19.045	7.043755	2	65
ナイジェリア	1,600	13.63438	5.760767	1	53
チュニジア	1,200	19.89333	6.545175	3	48

出典：筆者作成

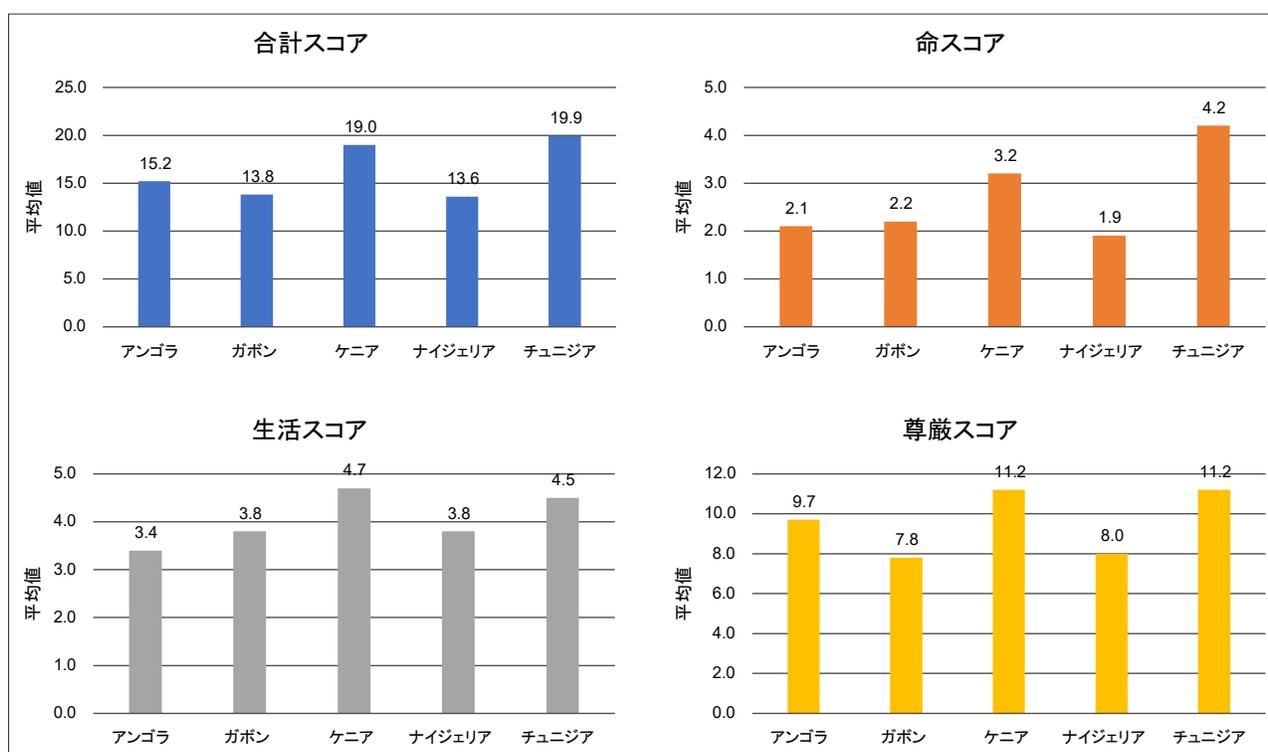


図1 3要素別・国別 HS スコア

出典：筆者作成

3.2. HS スコアの属性別比較

次に3要素合計および3要素別のHSスコアを、回答者の主要属性別に示す。ここではABによる調査における内訳に従い、居住地、ジェンダー、年齢階層、教育水準、生活貧困度別にHSスコアを集計し、国間、属性間で比較した。

(居住地別)

居住地別では回答者のHSスコアを都市、農村別に見た

(図2)。これを見ると合計スコアではアンゴラとケニアにおいて(わずかにガボンにおいても)、農村のHSスコアが都市居住者のそれより高く表れている。しかし、その他の国では都市-農村間でほとんど差がない。アンゴラとケニアでは、特に命と尊厳の側面において農村居住者の高スコアが見られる一方で、生活スコアにおいては各国押しなべて都市の方が高い結果となった。

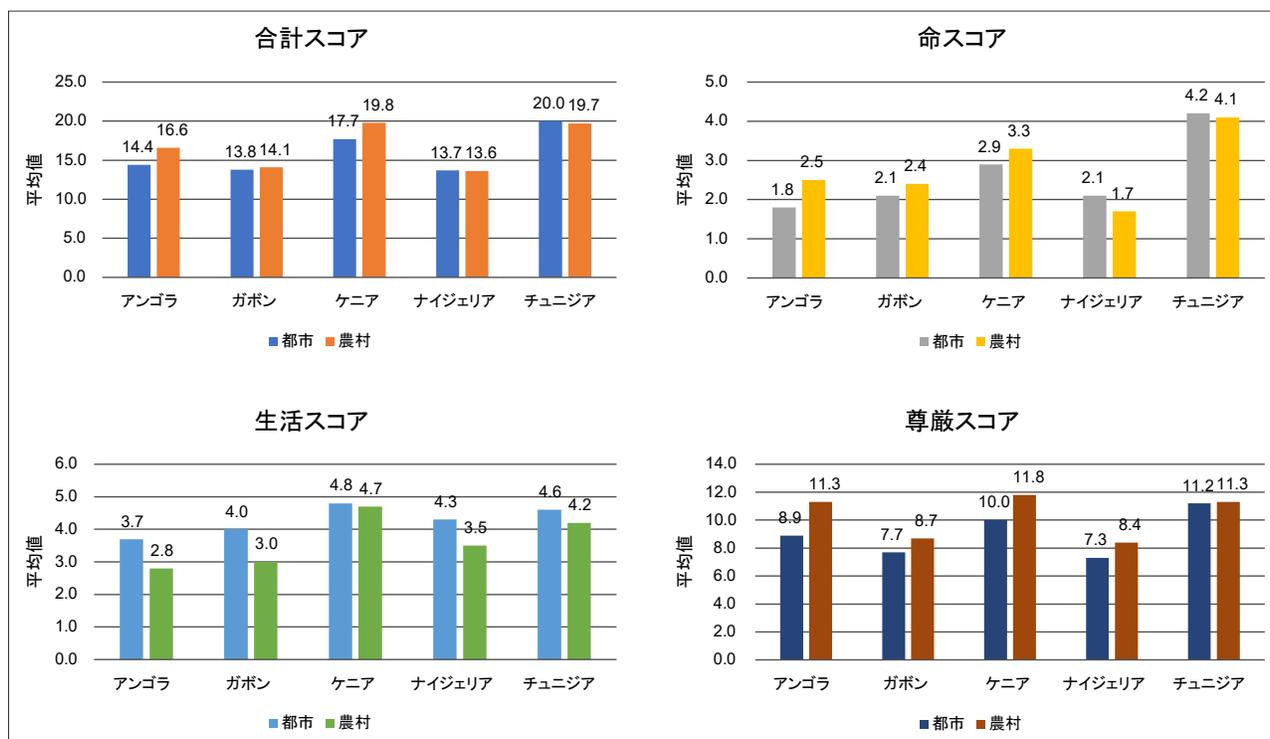


図2 居住地別・国別 HS スコア

出典：筆者作成

(ジェンダー別)

ジェンダー別では、全ての側面、国において男性の HS スコアが女性のそれを上回っていることが確認できる。しかし、国間比較においては、やはりチュニジア、ケニアの値が高く、特に命スコアにおいてその差が顕著である (図3)。

(年齢階層別)

5カ国を統合したスコア (図4) を見ると、合計スコアでは特に40歳代以降年齢が上がるほど HS スコアが高くなっていく傾向が読み取れる。しかし、3要素に分解するとそれぞれ異なる傾向が見えてくる。命スコアでは10歳代から30歳代にかけて徐々に下がった後に40歳代以降徐々に上昇に向かう。他方、生活スコアでは年代間で大きな差はみられないものの、20歳代、30歳代をピークに60歳代に向けて徐々に低下していく。尊厳スコアでは50歳代、60歳代の高さが顕著である。

合計スコアについてだけ国別に比較すると図5のとおりとなり、50歳代を除く全ての年代においてケニアのスコアがチュニジアを上回る値を示している一方で、全ての年代においてガボンとナイジェリアのスコアが低いことが確認できる。アンゴラはこれら2群の中間の値を示す。

(教育水準別)

教育水準を正規教育無/一部初等、初等教育修了、中等教育修了、中等教育以上の4段階に分け、各段階に所属する回答者の HS スコアを見ると最終学歴の水準と HS スコアの間には明確な対応関係が見られない、すなわち高学歴者の HS スコアが必ずしも高いわけではないし、またその逆でもないことがわかる。特に生活スコア、尊厳スコアでは、初等教育修了者の値が最も高くなっているのが特徴的である (図6)。

合計スコアについて国別に比較すると、他の指標と同様、全ての階層においてチュニジア、ケニアの順で高いスコアが記録されている一方で、ナイジェリアとガボンの値は全ての階層において最も低い。アンゴラは両群の中間値を示す (図7)。

(生活貧困度別)

貧困度別の HS スコアを見ると、すべての国において生活貧困度が低い、すなわち貧困ではないグループの人間の HS スコアの平均が他のグループに比べて高い傾向にあり、これは貧困度が増すに従って低下する。この傾向は命スコア、生活スコアにおいても当てはまるが、特に命スコアにおいて著しい。しかし、尊厳スコアについてはこの傾向は当てはまらず、回答者の貧困度によって HS スコアの間には顕著な差異は認められない (図8)。

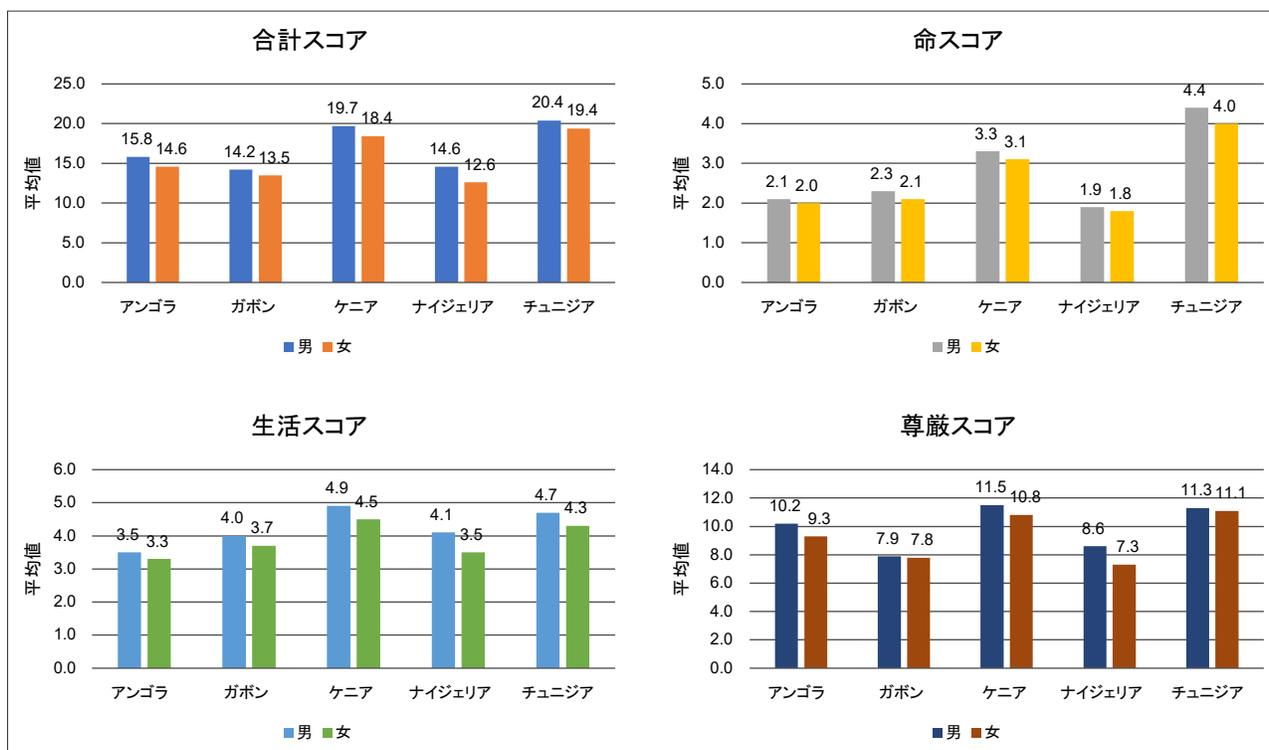


図3 ジェンダー別・国別 HS スコア

出典：筆者作成

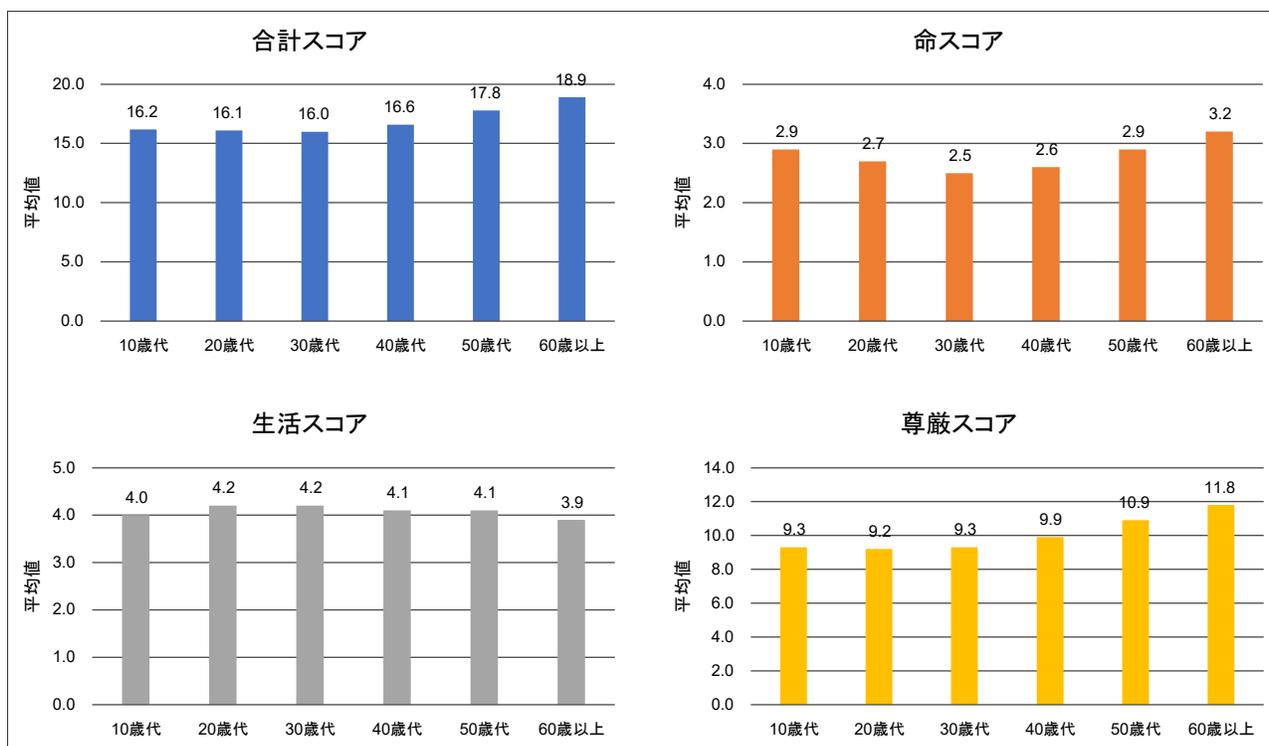


図4 年齢階層別 HS スコア

出典：筆者作成

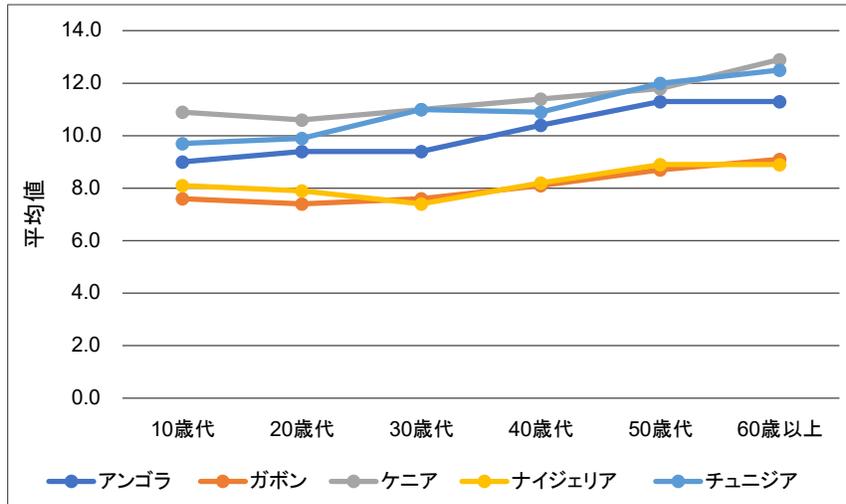


図5 年齢階層別・国別 HS スコア

出典：筆者作成

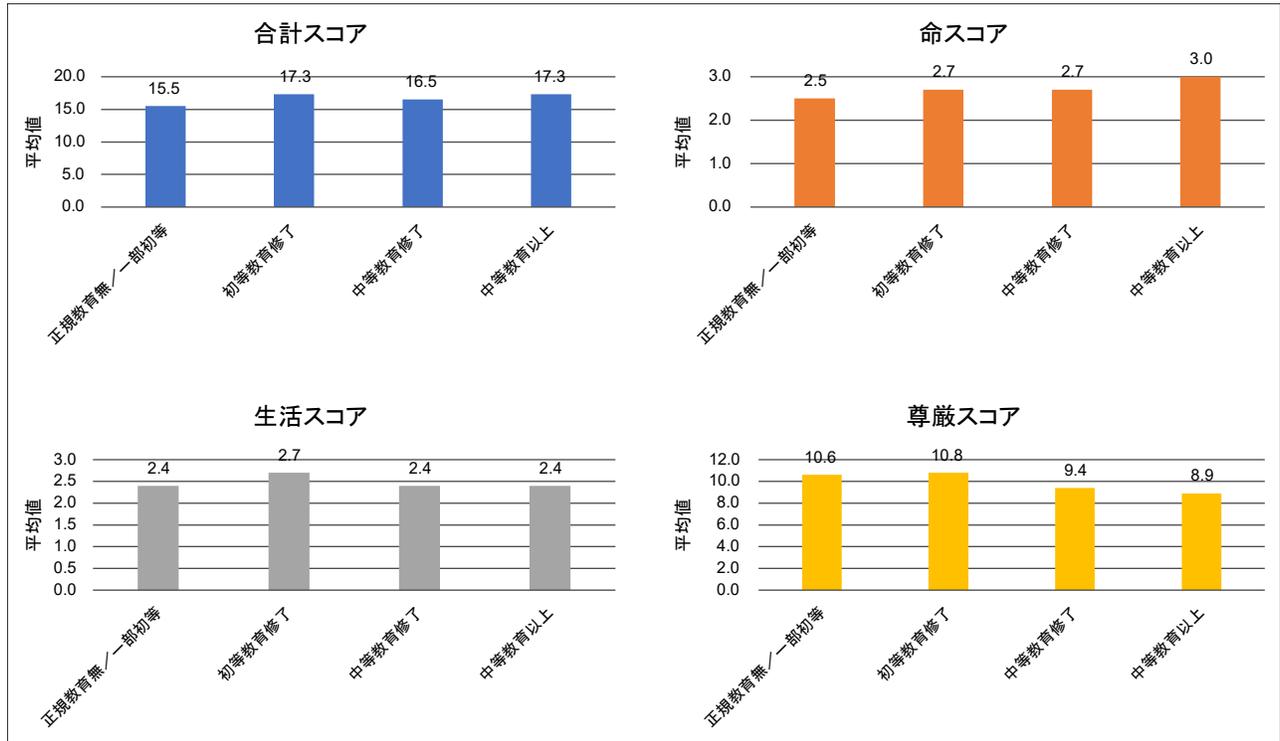


図6 教育水準別 HS スコア

出典：筆者作成

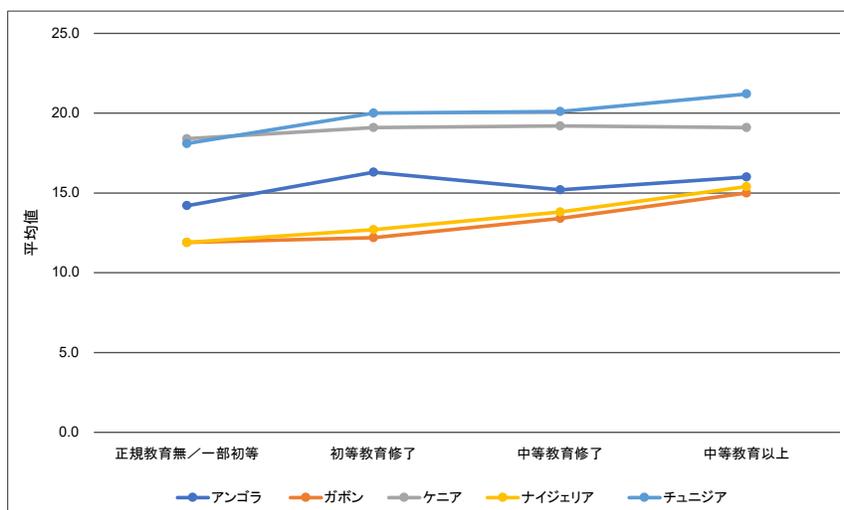


図7 教育水準別・国別 HS スコア

出典：筆者作成

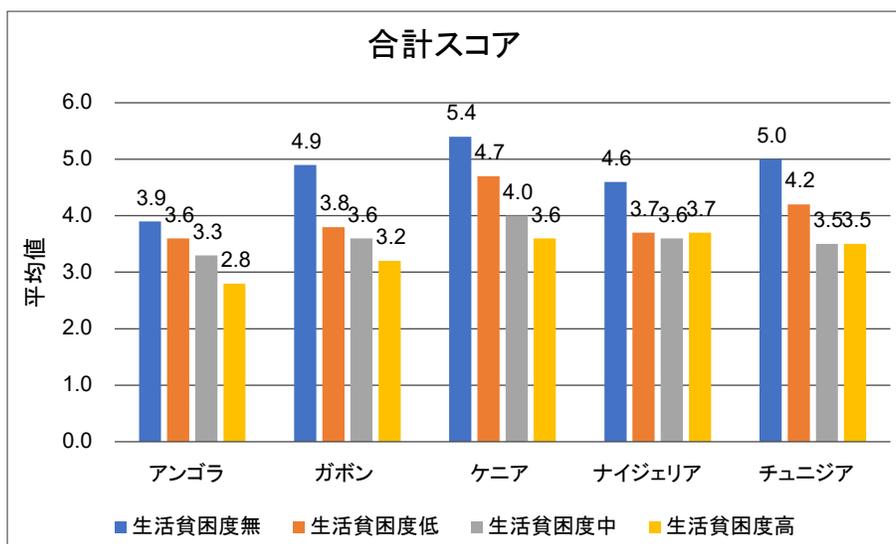


図8 生活貧困度別 HS スコア

出典：筆者作成

3.3. 人びとの安全/不安全意识の背景要因に関する回帰分析

(安全/不安全意识と脅威・脆弱性意識との関係)

安全/不安全意识と脅威・脆弱性意識との関係を見るにあたり、最初に二変数間の関係として後者を統合して両者間の関係を見た²⁰。結果としては、脅威・脆弱性統合スコア（生存・生活・尊厳の加重平均）の係数の推定値は、コントロール変数を入れ替えた様々なモデルにおいて、いずれも正で、有意水準 1% で統計的に有意であった。このことは、脅威・脆弱性の合計スコアが高い回答者ほど（脅威・脆弱性の低い回答

者ほど）、国が正しい方向に進んでいると考えている（将来に対する不安が低い）ことを示唆している。この結果を、ビン化された散布図として表すと図9のとおりとなる。

²⁰ 集計に当たっては、脅威意識における命、生活、尊厳、脆弱性意識における感度、対応能力、剥奪各カテゴリーにおける質問数が異なることを踏まえ、各質問に対する二値変数の回答を単純に合計するのではなく、回答の合計を各カテゴリーの設問数で割り、値1を取る設問の割合を計算した上で、1/3ずつのウェイトをかけ加重平均したものをを用いた。以下の分析でも同様の集計方法を用いた。

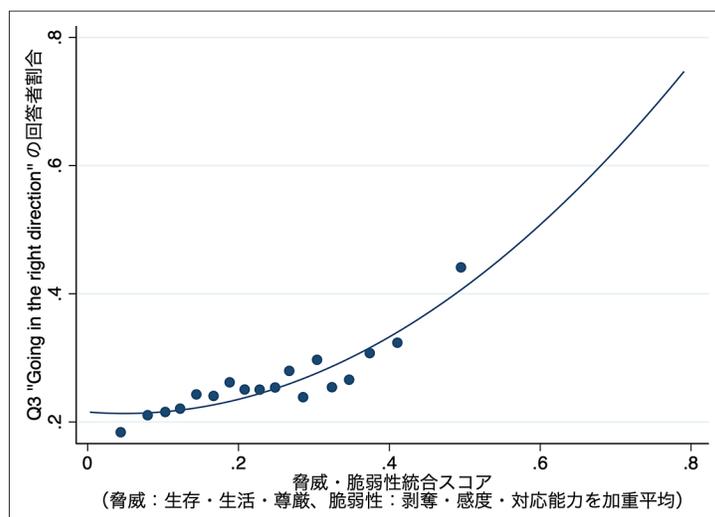


図9 安全／不安全意识と脅威・脆弱性統合スコアとの関係

出典：筆者作成

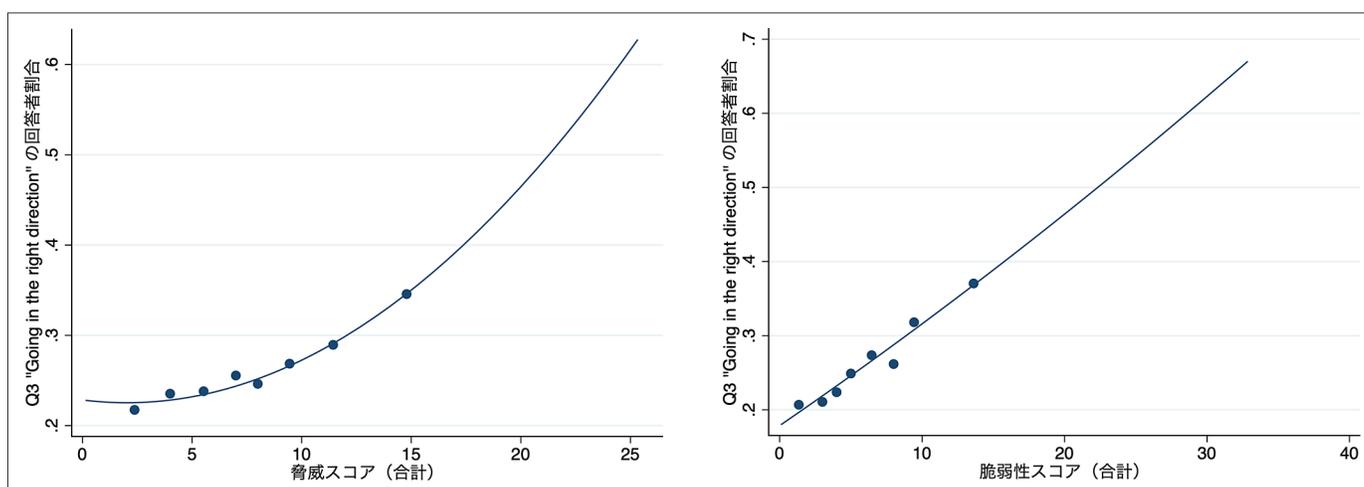


図10 安全／不安全意识と脅威・脆弱性意識との関係

出典：筆者作成

次に脅威意識、脆弱性意識それぞれと安全／不安全意识との関係を見ると、両者とも係数の推定値は、いずれのモデルにおいても全て正で、有意水準1%で統計的に有意であった(図10)。すなわち、脅威意識、脆弱性意識いずれについても、スコアが高い回答者ほど(すなわち主観的な脅威や脆弱性が低い状態の回答者ほど)、国が正しい方向に進んでいると考えている(将来に対する不安が低い)と解釈できる。

上記より、今回調査の回答者の脅威意識と脆弱性意識は、回答者の安全／不安全意识と相関関係があると解釈できる。

さらに安全／不安全意识と脅威意識、脆弱性を構成する感

度、対応能力、剥奪との関係を見るために、脅威スコアを統合したものを一つの説明変数として置く一方で(生存・生活・尊厳の加重平均)、脆弱性スコアを感度、対応能力、剥奪に分解し、それぞれを説明変数として、安全／不安全意识との相関を見た。その結果、これらの説明変数の推定値はいずれも正で、脅威意識、感度、剥奪については有意水準1%で統計的に有意であり、対応能力については有意水準5%で統計的に有意という結果が得られた。ただし、対応能力については集計方法によっては統計的に有意が確認されないという不安定な結果が得られた。

4. 考察

ここまでの分析結果を改めて整理すると以下のとおりとなる。まず人間の意識に基づく HS スコアの平均値を用いた国間比較では、チュニジアとケニアが他に比較して高い値を示す一方で、アンゴラ、ガボン、ナイジェリアが低い値を示した。この傾向は、3要素別に見た場合も基本的に同じである。

属性毎の比較では、男女別では、概ね男性の方が女性より高いスコアを示すが、その差は僅かである。居住地別では、総じて都市居住者のスコアが農村居住者のそれより高いが、尊厳スコアにおいては逆に農村>都市という結果であった。年齢階層別では、全般的には高齢層、命面では若年層と高齢層、生活面では30歳代から40歳代の壮年層、尊厳面では高齢層のスコアが高い。教育水準別では、高学歴>低学歴とは一概に言えず、初等教育修了者でも特に生活、尊厳面では高いスコアを示す。貧困レベルについては、概ね低貧困者>高貧困者の傾向を示しているが、尊厳スコアにおいてはその差は僅かである。

さらに要素間比較を行うことを意図して、国別の HS スコアを各要素の質問数で割って指数化し比較してみた(図11)。左図は上で示したとおりであるが、右の3要素別の図を見ると、チュニジア、ケニアについては特に命スコアが高いことがわかる。ガボンは命スコアではある程度高い値を示すものの、生活、尊厳スコアではナイジェリアと並んで最も低い部類に属する。アンゴラは命、生活スコアでは低い一方で、尊厳スコアではチュニジア、ケニアに次ぐ値であった。

ナイジェリアは合計で最も低く、3要素を通じて特に高い値を示した要素はなかった。

3要素の値を比較すると、命>尊厳>生活の順で大きな値を示しており、このことは人びとが、生活>尊厳>命の順で不安を感じていることを示していると考えられる。特に生活スコアについては、各国共通で人びとの不安の最も重要な一部を構成しているようである。

以上を踏まえて、人びとの意識から人間の安全保障を捉えることが政策ツールとして独自の価値を持つかどうかについて考えてみたい。ここでは3つの側面から考察する。

第一に、人びとの持つ安全/不安全に対する意識は一律ではなく、国家間、属性間、3要素間で異なることが明らかになった。この相違を一国内の地域に敷衍すれば、国内の様々な地方や地方自治体の間にも安全/不安全意識の差は当然存在するだろう。例えば一国内において、今回行ったような人びとの安全/不安全意識を調査すれば、国内の何処のどのようなグループが、何について不安を抱いているかについて明らかにすることができるだろう。すなわち人間の安全保障の喪失感を抱く脆弱層の所在とその不安、喪失感の具体的内容に明らかにすることができる可能性がある。このような情報を把握することは、今日の国際開発が目指す、全ての人を包摂し、公正な開発を行っていく上で極めて重要であり、ここに(意識により把握される)人間の安全保障の政策ツールとしての価値も存在する。

第二に、これらの将来に対する不安は、既存の客観的指標からは読み取れない性質のものであることに注目したい。上の結果を見ると、一人当たりの所得やHDIなどの客観的指標からの推測で直感的に理解できるものがある一方で、それ

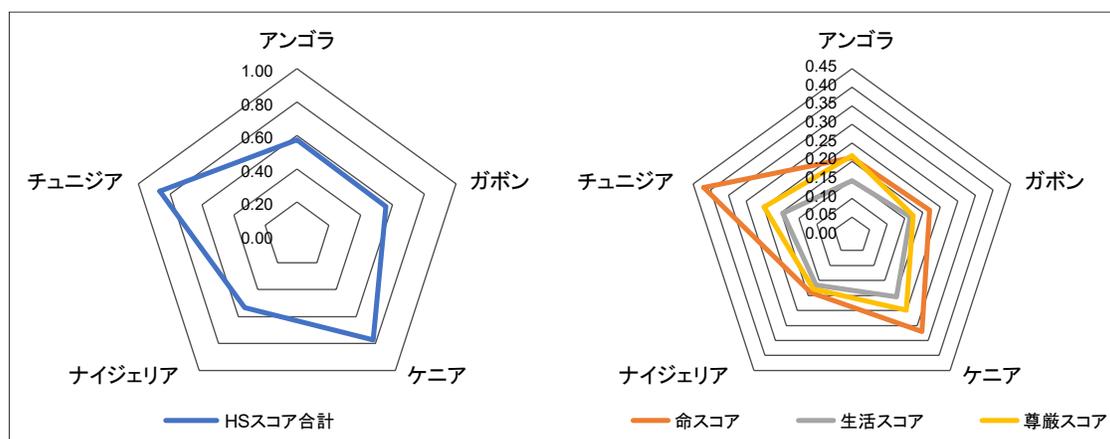


図11 指数化した3要素別・国別 HS スコアの比較

出典：筆者作成

とはいささか異なる傾向を示すものがある。例えば国レベルの客観的指標と HS スコアとの関係（特にケニア、ガボンについて）、都市－農村間の HS スコアの関係、教育水準と HS スコアとの関係などである。

例えば、ガボンは 2022 年の一人当たり所得が USD 7,540 を持つ上位中所得国であり、HDI でみても 0.71 と高位国に位置づけられる。また、ケニアの一人当たり所得は USD 2,170 で低位中所得国であり、HDI は 0.575 の中位国である²¹。脆弱国家指数においてもガボンは低警戒度国（Low Warning）である一方、ケニアは高警戒度国（High Warning）である。都市－農村間については、一般に都市の方が所得面だけでなく公共サービスや職業機会へのアクセスなどにおいて高く、その限りでは人びとの生活への不安は農村におけるそれよりも低いと推測される。また教育水準についても、高ければ高いほど高収入や職業選択の自由と結びついていることから、教育水準が高い人の方が将来へ不安は低いように思われる。しかし今回結果を見る限り、必ずしもこれらの一般的理解とは合致しないものが含まれていた。

これらの結果は、人間の意識に基づく安全／不安全の水準には、HDI を代表とする開発の客観的指標からだけでは推し量れない側面があることを示唆している。貧困指標などを以て人間の安全保障を表そうとする既存の試みを批判した Homolar (2015) は、国家のパフォーマンスを示す客観的指標によっては人間の安全保障を測定することはできないと主張したが²²、上で示した結果は正にそのことを示しているのではない。

この理由の一つとして、人間の安全保障には、尊厳の要素が含まれていることが考えられる。上で見たように、ガボンの場合、ケニアに比して特に低い値を示したのは命スコアとともに尊厳スコアであった²³。また、農村居住者、低教育水

準者に共通した特徴は、尊厳スコアの高さであった。これらは一例に過ぎないが、ここから類推するに、人びとの将来に対する安全／不安全意識には尊厳に対する意識が深く関係している可能性がある。尊厳に対する意識——すなわち自分自身に対して誇りが持てること——は、高須・峯 (2022) が述べたように、自分自身、他者、共同体、公への信頼に支えられる必要があり、これらは一人当たり所得や人間開発に含まれる要素とは異なる価値に根差している。そしてそれを測定するためには人びとの主観に迫るという独自のアプローチを要する。このような性格を持つ尊厳の要素を含むがゆえに、人びとの意識を通じて人間の安全保障を把握することには独自の価値があると言える。このことは UNDP (2022) が、人間の安全保障概念の持つ特性として、「開発を単に人々のウェルビーイングの側面だけで評価することで生じる盲点を補うことである」（前掲書、3）、としているのと通じるだろう。

第三に、将来に対する不安としての人間の安全保障を測定することが開発に対して持つ意味について注目する。人間開発を含む開発が基本的に将来に向けた改良志向の概念であるとすれば、ここで規定した人間の安全保障は現在得られた価値が将来失われるかもしれないという不安、すなわち将来のリスクに焦点を当てた概念である（人間の安全保障委員会 2003, 32）。人にとって将来に対するリスクが大きく、投資からの将来リターンが不確定なものであれば、人は今手元にある資源を長期的な目標のために投資するのではなく、より身近な目標達成のために用いてしまうだろう。そのことにより短期的な満足は得られるかもしれないが、長期的な厚生水準向上への効果は低くなってしまいうだろう²⁴。そのため人間の安全保障に必要な最低限の条件が存在しない場合、すなわち将来に対する不安、リスクが大きい場合には、長期的な営みである開発を阻害することになる。その意味で人間の安全保障は人間開発を含む開発の前提条件を成すと言える（Busumtwi-Sam 2008）²⁵。そしてこの人間の安全保障の欠落、格差は、上で見たように様々な属性や国家、地域の間で確実に存在するのである。このように人びとの意識から見た人間の安全保障を明らかにすることは、人びとの将来リスク

²¹ 一人当たりの所得については World Development Index (World Bank 2022)、HDI については UNDP 2022 に基づく。試みに HDI を構成する平均余命指数、教育指数について計算してみたところ、ガボンはそれぞれ 0.70 で上位レベルに位置づけられ、ケニアは 0.64、0.60 と中位レベルであった。なお、もう一つの構成指数である GNI 指数は、ガボンで 0.74、ケニアが 0.57 とさらに差が拡大する。

²² 例えば、人間開発指標に含まれる GNI 指数は、国家の経済パフォーマンスを示す GNI を人口で除いたものであり、必ずしも個人々の経済的な安全／不安全を表すものではない、とされる (Homolar 2015, 848)。

²³ さらに傍証として、2022 年度のケニアの世界自由度指数 (Freedom in the World) は、1～100 を取る指標において 52 を記録し「部分的に自由」(partly free) とされているのに対し、ガボンのそれは 20 と「自由ではない」(not free) に区分されている (Freedom House 2022)。

²⁴ ミクロ経済学における不確実性下の期待効用理論研究においても、保険や金融市場が未整備な条件下においては、「貧困層においてはリスクの厚生コストが大きくなるため、期待利潤が大きい生産や投資の機会が存在しても、リスクが大きければ、貧困層はその事業に乗り出せずに所得向上の機会をみすみす見逃さざるを得なくなる」(黒崎 2002, 4) ことが知られている。

²⁵ 言うまでもないが、貧困削減や格差是正などを通じて開発は人間の安全保障を補完する。その意味で両者は相互補完的である。

についての主観的情報を得るという意味でも独自の価値を持つと言える²⁶。

このように人びとの意識から見た人間の安全保障には、①社会内脆弱層とその不安の具体的内容の把握、②尊厳を中心とする人間の安全保障を構成する中心的価値の可視化、③将来リスクに関する主観的情報の把握、の3点において独自性を持ち、その意味で開発の政策ツールとして付加価値を持つと言える。

他方で、回帰分析の結果からは、回答者の将来の安全／不安全に対する意識はその背後にある脅威意識ならびに脆弱性意識とそれぞれ正の相関関係にあることが確認された。すなわち脅威を感じる度合いが低ければ低いほど将来に対する不安が低く、脆弱性を感じる度合いが低ければ低いほど将来に対する不安感は低いことが示された。さらに脆弱性意識は、感度、剥奪と統計的に有意な関係があり、不安定ではあるが対応能力とも一定の相関関係にあることも明らかになった。これらの安全／不安全意識を巡る背景要因との関係は直感的に理解できるところではあるが、今回改めて人びとの意識調査を通じて実証的に確認できたことは、人間の安全保障が一定の操作可能性を持つことを示しており、今後人間の安全保障を分析概念として用いることを容易にする意味において意義があると考えられる。

なお、脆弱性の構成要素とした感度と対応能力は、それぞれ自分は将来の脅威から守られるか否か、脅威に見舞われた場合に対処できるか否かに関する意識であると理解され、これらは人間の安全保障が重視する保護とエンパワメントに対応していると考えられる。一方で剥奪に関する意識については、今回そこに含まれた質問内容が政治的自由や言論の自由に関するものであることから、これらの政治や言論空間に関する自由度（認識）が脆弱性意識を通して人びとの安全／不安全意識に影響を与えていることが確認できる。今回分析において、政治・言論の自由は尊厳の一構成要素として扱ってきたことから、この結果は改めて自由と尊厳が不可分なものであることを示唆しているだろう。

結論

以上、見てきたように、人間の安全保障は、人びとの安全／不安全に対する意識——将来に対する不安——として把握することにより、社会内の脆弱層の所在とその不安の内容を明らかにすることができ、それを通じて包摂的開発の推進に貢献することができる。さらに尊厳を可視化することを通じて、これまで客観的指標からは捕捉できなかった人間の安全保障を構成する重要な一側面を照らし出すことができる。そして、人びとの安全／不安全意識は、開発の前提条件としての将来リスクに関する主観的情報を提供することができる。これらを根拠として、人びとの意識から人間の安全保障を把握することは、政策ツールとして十分に付加価値を持つと言える。そしてそれを分析するに当たっては、危機管理学や防災学のリスク評価の枠組みを援用することによって操作可能性を持つことができる。つまり人間の安全保障を政策ツールとして発展させる余地は大いにあると言える。

人間の安全保障の可能性をこのように理解した上で、実際の政策現場においてどのように活用可能であろうか。

一つには、人びとの安全／不安全意識に関する意識調査を通じて、一定地域内で不安全を感じる人びとがどこに存在するかを明らかにすることは有用だろう。今回はAB調査に基づく属性比較に留まったが、日本での事例が示すように、障がい者、移民・難民などを対象とした分析も可能であろう。また今回は行い得なかったが、同様の調査を通じて脅威認識の具体的対象やその強度を把握することも可能である。

もう一つは、人びとの安全／不安全の意識を、その対象集団に関する客観的指標に照らし合わせて相互の異同、差異を見ることにより、具体的な政策課題を把握することが可能になるだろう。例えば、客観的指標と主観的な意識の間には、双方が高い、双方が低い、一方が高く他方が低い（そしてその逆）といった4つの組み合わせが想定できるが、このうち双方が高い場合を除き、その他の3つの状況について、脅威—脆弱性枠組みを念頭に安全／不安全意識の背景を分析し、開発の前提条件の欠如の所在を明らかにすることを通じて具体的な政策課題を同定することに繋がられるのではないか。

これらの分析を、「人間の安全保障」フォーラム・高須(2019)、高須・峯(2022)が行ったように、一国内の特定地域（さらにはそれを構成する小地域）に適用して地域間比較を行うことにより、人間の安全保障を踏まえたきめの細か

²⁶ ミクロ経済学の観点から、脆弱性に関する定性的・主観的調査の重要性を指摘したものに黒崎(2005)がある。柳原(2019)は、人間の安全保障概念には、「最上位の価値として『人間の安全』を掲げ、生命・生活・尊厳の確保を究極の目的として置くことには、『保全』を『開発』に先立つものとして位置付け、脅威に対する事前および事後の対応を重視し優先する、という独自の意義がある」とした。

い地域開発につなげることができる。さらに同様な調査を特定の地域を対象にして継続的に行い、時系列的变化を追うことができればより有効だろう。具体的には、今回取り上げたABだけでなく、世界価値観調査(World Values Survey)のような既存の意識調査の枠組みに人びとの安全/不安全感に関する質問項目を加えることにより、継続的な調査も可能になる。人間の安全保障概念を支えてきた日本政府やUNDPは、同概念のより一層の具体化を促進する観点から、このような意識調査に参画し人間の安全保障に関する質問を挿入するよう働きかけることを検討してもよいだろう。

今回の分析は、人間の安全保障概念の政策ツールとしての操作化を目指したごく初歩的な試みである。分析のベースとなった意識調査はABの定期調査をベースとしたものであり、人間の安全保障だけを対象としたものではない。また、尊厳に関する質問を含め、HSスコアや回帰分析に用いた質問の選択も既存の質問の中から選択せざるを得ないという制約があった。さらに安全/不安全感とその背景要因との関係も相関関係を推定するに留まり、因果関係を明らかにするには至っていない。これらは今後の課題である。

そのような制約はありつつも、今回人間の安全保障概念を人びとの主観に基づく安全/不安全感として捉えるアプローチの可能性について一定の見通しが得られた。「開発はどうしてもある程度『集合的』な概念にならざるを得ないが、危険な状況に対処することを考える場合には、個人を中心に置く必要がある」(人間の安全保障委員会 2003, 17)と言われるように、人間の安全保障は本来人間一人ひとりの状況に関心を持った概念である。その意味で、今回試みたように一人ひとりの声に耳を傾けてみることに一定の意義があるだろう。人びとが多様な危機に見舞われる今日であるからこそ、開発においても一人ひとりの抱える不安に正面から向き合ったより丁寧な対応が求められていると言える。

参考文献

加藤朗, 1999, 「危機管理の概念と類型」, 公共政策, 1999.1998-1, 栗穂薫子, 2009, 「人間の安全保障研究と国際関係論: 新しいリサーチの地平?」, 国際公共政策研究, 14(1): 15-30.
黒崎卓, 2002, 「開発のミクロ計量経済学的分析: 研究展望」, 財務総合政策研究所ディスカッション・ペーパー 2002, 6, 2023年8月31日アクセス, <https://www.ier.hit-u.ac.jp/~kurosaki/review2.pdf>
——, 2005, 「リスクに対する脆弱性と貧困—経済学のアプローチ—」, 独立行政法人国際協力機構国際協力総合研修所調査研究グループ編『貧困削減と人間の安全保障』, JICA, 163-178.

国際協力機構(JICA)緒方貞子平和開発研究所, 2022, 「JICA 緒方研究所レポート: 今日の人間の安全保障」, 2023年8月31日アクセス, https://www.jica.go.jp/Resource/jica-ri/ja/publication/booksandreports/uc7fig00000049tb-att/Human_Security_Today_01_20230217.pdf
高須幸雄・峯陽一編著, 2022, 「SDGsと地域社会: あなたのまちで人間の安全保障指標をつくらう! 宮城モデルから全国へ」, 明石書店.
人間の安全保障委員会, 2003, 「人間の安全保障の今日的課題—人間の安全保障委員会報告書」, 朝日新聞社.
「人間の安全保障」フォーラム編・高須幸雄編著, 2019, 「全国データSDGsと日本: 誰も取り残されないための人間の安全保障指標」, 明石書店.
花谷厚, 2022, 「アフリカにおける人間の安全保障をめぐる理解と実践—歴史とコロナ禍のもとでの変化」, JICA 緒方研究所レポート 今日の人間の安全保障.
柳原透, 2019, 「人間の安全保障」に見る日本の援助の特色—外務省・JICA 文書のレビューより, 「日本の開発協力の歴史」バックグラウンドペーパー, (6): 1-56.
Abello-Colak, Alexandra. 2021. How a public health crisis turned into a localised human security crisis in the Global South. *LSE Latin America and Caribbean Blog*.
Afrobarometer. 2022. "Revisiting human security in Africa in the post-COVID-19 era." Accra.
Bündnis Entwicklung Hilft Ruhr University Bochum – Institute for International Law of Peace and Armed Conflict (IFHV). 2022. "WorldRiskReport 2022." Accessed on August 31, 2023. https://weltrisikobericht.de/wp-content/uploads/2022/09/WorldRiskReport-2022_Online.pdf
Busumtvi-Sam, James. 2008. "Contextualizing human security: A 'deprivation-vulnerability' approach." *Policy and Society*. 27(1): 15-28.
de Simone, Sara. 2020. "Beyond normativity and benchmarking: Applying a human security approach to refugee-hosting areas in Africa." *Third World Quarterly*. 41(1): 168-183.
Fukuda-Parr, Sakiko and Carol Messineo. 2012. "Human Security: A critical review of the literature." *Centre for Research on Peace and Development (CRPD) Working Paper*. 11: 1-19.
Freedom House. "Freedom in the World 2022." Washington DC. Accessed on August 31, 2023. https://freedomhouse.org/sites/default/files/2022-02/FIW_2022_PDF_Booklet_Digital_Final_Web.pdf
Gasper, Des, and Oscar A. Gómez. 2015. "Human Security Thinking in Practice: Personal Security, Citizen Security and Comprehensive Mappings." *Contemporary Politics*. 21(1): 100-116.
Gouvernement de la Republique du Benin et le Programme des Nations Unies pour le developpement (PNUD). 2011. "Rapport national sur le developpement humain 2010-2011: Sécurité Humaine et Développement Humain au Bénin." Cotonou.

- . 2016. “Rapport National 2016 de Suivi de la Sécurité Humaine au Bénin.” Cotonou.
- Gómez, Oscar A., Des Gasper and Yoich Mine. 2013. “Good practices in addressing human security through national human development reports.” Available at SSRN 2552757.
- Glasius, Marlies. 2008. “Human security from paradigm shift to operationalization: Job description for a human security worker.” *Security Dialogue*. 39(1): 31–54.
- Homolar, Alexandra. 2015. “Human security benchmarks: Governing human wellbeing at a distance.” *Review of International Studies*. 41(5): 843–863.
- Jolly, Richard and Deepayan Basu Ray. 2006. “The human security framework and national human development reports: A review of experiences and current debates.” *NHDR Occasional Paper*. 5.
- King, Gary and Christopher J.L. Murray. 2001. “Rethinking human security.” *Political Science Quarterly*. 585–610.
- Mine, Yoichi and Oscar A. Gomez. 2013. “Multiple Interfaces of Human Security: Coping with Downturns for Human Sustainability.” *Journal of Human Security Studies*. 2(1): 10–29.
- Muguruza, Cristina Churruca. 2007. “Human security as a policy framework: Critics and challenges.” *Anuario de Acción Humanitaria y Derechos Humanos/Yearbook of Humanitarian Action and Human Rights*. (4): 15–35.
- Newman, Edward. 2004. “A normatively attractive but analytically weak concept.” *Security Dialogue*. 35(3): 358–359.
- . 2016. “Human security: Reconciling critical aspirations with political ‘realities’.” *British Journal of Criminology*. 56(6): 1165–1183.
- . 2022. “COVID-19: A human security analysis.” *Global Society*. 36(4): 431–454.
- Owen, Taylor. 2004. “Human security-conflict, critique and consensus: Colloquium remarks and a proposal for a threshold-based definition.” *Security Dialogue*. 35(3): 373–387.
- Owen, Taylor and Aldo Benini. 2004. “Human Security in Cambodia: A Statistical Analysis of Large-Sample Sub-National Vulnerability Data.” *Report written for the Centre for the Study of Civil War at the International Peace Research Institute Oslo*.
- Owens, Heather and Barbara Arneil. 1999. “The human security paradigm shift: A new lens on Canadian foreign policy?” *Report of the University of British Columbia: Symposium on Human Security*.
- Paris, Roland. 2001. “Human security: paradigm shift or hot air?” *International security*. 26(2): 87–102.
- Stevens, Daniel and Nick Vaughan-Williams. 2016. “Citizens and security threats: Issues, perceptions and consequences beyond the national frame.” *British Journal of Political Science*. 46(1): 149–175.
- Study Group on Europe's Security Capabilities. 2004. “A human security doctrine for Europe: the Barcelona Report of the Study Group on Europe's Security Capabilities, presented to EU High Representative for Common Foreign and Security Policy.” Javier Solana. Accessed on August 31, 2023. https://www.europarl.europa.eu/meetdocs/2004_2009/documents/dv/human_security_report_/human_security_report_en.pdf
- Suhrke, Astri. 1999. “Human security and the interests of states.” *Security Dialogue*. 30(3): 265–276.
- Tadjbakhsh, Shahrbanou, and Anuradha Chenoy. 2006. “Human Security Concepts and Implications.” London: Routledge.
- Umukoro, Nathaniel. 2021. “Coronavirus disease outbreak and human security in Africa.” *Journal of Peacebuilding & Development*. 16(2): 254–258.
- UNDP (United Nations Development Programme). 1994. “Human Development Report 1994: New Dimensions of Human Security.” New York. Accessed on August 31, 2023. <https://hdr.undp.org/system/files/documents/hdr1994encompletenostatspdf.pdf>
- . 2022. “Special Report on Human Security.” New York. Accessed on August 31, 2023. <https://hdr.undp.org/system/files/documents/srhs2022pdf.pdf>
- UNDP Latvia. 2003. “Latvia Human Development Report 2002/2003.” Riga. Accessed on August 31, 2023. https://www.lu.lv/fileadmin/user_upload/lu_portal/projekti/citi_projekti/undp2003_ful_en.pdf
- UNDRR (United Nations Office for Disaster Reduction). 2022. “Global Assessment Report on Disaster Risk Reduction. Our World at Risk: Transforming Governance for a Resilient Future.” Accessed on August 31, 2023. <https://www.undrr.org/annual-report/2022>
- UNGA (United Nations General Assembly). 2005. “World Summit Outcome A/RES/60/1.” Accessed on August 31, 2023. https://www.un.org/en/development/desa/population/migration/generalassembly/docs/globalcompact/A_RES_60_1.pdf
- . 2012. “Follow-up to paragraph 143 on human security of the 2005 World Summit Outcome A/RES/66/290.” Accessed on August 31, 2023. <https://digitallibrary.un.org/record/737105?ln=en>
- World Bank. “Gabon/Kenya, GNI per capita, Atlas method (current US\$), 2022.” Accessed on August 31, 2023. <https://databank.worldbank.org/reports.aspx?source=World-Development-Indicators>

Appendix HSスコア質問リスト

質問番号	質問文	質問のカテゴリー	命・生活・尊厳区分	脅威・脆弱性区分	脆弱性細区分 (感度・対応能力・剥奪)
3	Would you say that the country is going in the wrong direction or going in the right direction?	Life satisfaction	尊厳	NA	
4A	The present economic condition of this country?	Life satisfaction	尊厳	NA	
4B	Your own present living conditions?	Life satisfaction	尊厳	NA	
5A	Looking back, how do you rate economic conditions in this country compared to 12 months ago?	Economy, jobs and work	生活	脅威	
5B	Looking ahead, do you expect economic conditions in this country to be better or worse in 12 months' time?	Economy, jobs and work	生活	脅威	
6A	Over the past year, how often, if ever, have you or anyone in your family gone without: Enough food to eat?	Life	命	NA	
6B	Over the past year, how often, if ever, have you or anyone in your family gone without: Enough clean water for home use?	Life	命	NA	
6C	Over the past year, how often, if ever, have you or anyone in your family gone without: Medicines or medical treatment?	Life	命	NA	
6D	Over the past year, how often, if ever, have you or anyone in your family gone without: Enough fuel to cook your food?	Life	命	NA	
6E	Over the past year, how often, if ever, have you or anyone in your family gone without: A cash income?	Life	命	NA	
7A	Over the past year, how often, if ever, have you or anyone in your family: Felt unsafe walking in your neighbourhood?	Life	命	脅威	
7B	Over the past year, how often, if ever, have you or anyone in your family: Feared crime in your own home?	Life	命	脅威	
8	When you get together with your friends or family, how often would you say you discuss political matters?	Community, civic engagement, and international outlook	尊厳	脆弱性 (強靱性)	剥奪
9A	In this country, how free are you: To say what you think?	Community, civic engagement, and international outlook	尊厳	脆弱性 (強靱性)	剥奪
9B	To join any political organization you want?	Community, civic engagement, and international outlook	尊厳	脆弱性 (強靱性)	剥奪
9C	To choose who to vote for without feeling pressured?	Community, civic engagement, and international outlook	尊厳	脆弱性 (強靱性)	剥奪
10A	Here is a list of actions that people sometimes take as citizens. For each of these, please tell me whether you, personally, have done any of these things during the past year. Attended a community meeting?	Community, civic engagement, and international outlook	尊厳	脆弱性 (強靱性)	剥奪
10B	Got together with others to raise an issue?	Community, civic engagement, and international outlook	尊厳	脆弱性 (強靱性)	剥奪
10C	Participated in a demonstration or protest march?	Community, civic engagement, and international outlook	尊厳	脆弱性 (強靱性)	剥奪
14C	On the whole, how would you rate the freeness and fairness of the last national election, held in 2017?	Trust in public sector	尊厳	脅威	
33B	In your opinion, how often, in this country: Does the president ignore the courts and laws of this country?	Trust in public sector	尊厳	脅威	
33C	Does the president ignore Parliament and just do what he wants?	Trust in public sector	尊厳	脅威	
33D	Do people have to be careful of what they say about politics?	Trust in public sector	尊厳	脅威	
33E	Are people treated unequally under the law?	Trust in public sector	尊厳	脅威	
33I	How often, if ever, are people treated unfairly by the government based on their economic status, that is, how rich or poor they are?	Trust in public sector	尊厳	脅威	
33H	In your opinion, how free is the news media in this country to report and comment on the news without censorship or interference by the government?	Trust in public sector	尊厳	脆弱性 (強靱性)	剥奪

35A	How likely is it that you could get the following information from government or other public institutions, or haven't you heard enough to say?: If you contacted the local school to find out what the school's budget is and how the funds have been used.	Trust in public sector	尊厳	脆弱性 (強靱性)	剥奪
36B	How likely is it that you could get someone to take action: If you went to the local school to report teacher misbehavior such as absenteeism or mistreatment of students.	Trust in public sector	尊厳	脆弱性 (強靱性)	剥奪
37A	How much do you trust each of the following, or haven't you heard enough about them to say? : The president	Trust in public sector	尊厳	脅威	
37G	How much do you trust each of the following, or haven't you heard enough about them to say?: The police	Trust in public sector	尊厳	脅威	
38C	How many of the following people do you think are involved in corruption, or haven't you heard enough about them to say?: Civil servants	Trust in public sector	尊厳	脅威	
38E	How many of the following people do you think are involved in corruption, or haven't you heard enough about them to say?: Police	Trust in public sector	尊厳	脅威	
39A	In your opinion, over the past year, has the level of corruption in this country increased, decreased, or stayed the same?	Trust in public sector	尊厳	脅威	
39B	In this country, can ordinary people report incidents of corruption without fear, or do they risk retaliation or other negative consequences if they speak out?	Trust in public sector	尊厳	脅威	
44A	In your opinion, how often do the police in Kenya: Operate in a professional manner and respect the rights of all citizens?	Trust in public sector	尊厳	脅威	
44C	In your opinion, how often do the police in Kenya: Use excessive force in managing protests or demonstrations?	Trust in public sector	尊厳	脅威	
46A	How well or badly would you say the current government is handling the following matters, or haven't you heard enough to say?: Managing the economy	Economy, jobs and work	生活	脆弱性 (強靱性)	感度
46B	How well or badly would you say the current government is handling the following matters, or haven't you heard enough to say?: Improving the living standards of the poor?	Welfare	生活	脆弱性 (強靱性)	感度
46C	How well or badly would you say the current government is handling the following matters, or haven't you heard enough to say?: Creating jobs	Economy, jobs and work	生活	脆弱性 (強靱性)	感度
46D	How well or badly would you say the current government is handling the following matters, or haven't you heard enough to say?: Keeping prices stable?	Economy, jobs and work	生活	脆弱性 (強靱性)	感度
46E	How well or badly would you say the current government is handling the following matters, or haven't you heard enough to say?: Narrowing gaps between rich and poor?	Welfare	生活	脆弱性 (強靱性)	感度
46F	How well or badly would you say the current government is handling the following matters, or haven't you heard enough to say?: Reducing crime?	Life	生存	脆弱性 (強靱性)	感度
46G	How well or badly would you say the current government is handling the following matters, or haven't you heard enough to say?: Improving basic health services?	Health	生存	脆弱性 (強靱性)	感度
46H	How well or badly would you say the current government is handling the following matters, or haven't you heard enough to say?: Addressing educational needs?	Education	生活	脆弱性 (強靱性)	感度
46I	How well or badly would you say the current government is handling the following matters, or haven't you heard enough to say?: Providing water and sanitation services?	Living conditions, environmental quality and personal security	生活	脆弱性 (強靱性)	感度
46J	How well or badly would you say the current government is handling the following matters, or haven't you heard enough to say?: Fighting corruption in government?	Trust in public sector	尊厳	脆弱性 (強靱性)	感度
46K	How well or badly would you say the current government is handling the following matters, or haven't you heard enough to say?: Maintaining roads and bridges?	Living conditions, environmental quality and personal security	生活	脆弱性 (強靱性)	感度

46L	How well or badly would you say the current government is handling the following matters, or haven't you heard enough to say?: Providing a reliable supply of electricity?	Living conditions, environmental quality and personal security	生活	脆弱性 (強韌性)	感度
46M	How well or badly would you say the current government is handling the following matters, or haven't you heard enough to say?: Preventing or resolving violent conflict?	Life	生存	脆弱性 (強韌性)	感度
46N	How well or badly would you say the current government is handling the following matters, or haven't you heard enough to say?: Promoting equal rights and opportunities for women?	Children and women	尊嚴	脆弱性 (強韌性)	感度
46O	How well or badly would you say the current government is handling the following matters, or haven't you heard enough to say?: Protecting and promoting the well-being of vulnerable children?	Welfare	生活	脆弱性 (強韌性)	感度
46P	How well or badly would you say the current government is handling the following matters, or haven't you heard enough to say?: Addressing the problem of climate change?	Living conditions, environmental quality and personal security	生活	脆弱性 (強韌性)	感度
46Q	How well or badly would you say the current government is handling the following matters, or haven't you heard enough to say?: Reducing pollution and protecting the environment?	Living conditions, environmental quality and personal security	生活	脆弱性 (強韌性)	感度
49A	In our country today, women and men have equal opportunities to get a job that pays a wage or salary.	Children and women	尊嚴	脅威	
49B	In our country today, women and men have equal opportunities to own and inherit land.	Children and women	尊嚴	脅威	
50B	If a woman in your community runs for elected office, how likely or unlikely is it that the following things might occur?: She will be criticized, called names, or harassed by others in the community?	Children and women	尊嚴	脅威	
52A	For each of the following actions, please tell me whether you think it can always be justified, sometimes be justified, or never be justified: For parents to use physical force to discipline their children?	Children and women	尊嚴	脅威	
52B	For each of the following actions, please tell me whether you think it can always be justified, sometimes be justified, or never be justified: For a man to use physical discipline on his wife if she has done something he doesn't like or thinks is wrong?	Children and women	尊嚴	脅威	
53A	In this area, how common do you think it is for men to use violence against women and girls in the home or in the community?	Children and women	尊嚴	脅威	
53B	If a woman in your community goes to the police to report being a victim of gender-based violence, for example, to report a rape or report being physically abused by her husband, how likely or unlikely is it that the following things might occur?: Her case will be taken seriously by the police?	Children and women	尊嚴	脅威	
53C	If a woman in your community goes to the police to report being a victim of gender-based violence, for example, to report a rape or report being physically abused by her husband, how likely or unlikely is it that the following things might occur?: She will be criticized, harassed, or shamed by others in the community?	Children and women	尊嚴	脅威	
55A	How frequently do you think the following things occur in your community or neighbourhood?: Adults use physical force to discipline children?	Children and women	尊嚴	脅威	
55B	How frequently do you think the following things occur in your community or neighbourhood?: Children are abused, mistreated, or neglected?	Children and women	尊嚴	脅威	
55C	How frequently do you think the following things occur in your community or neighbourhood?: Children who should be in school are not in school?	Education	生活	脅威	

56A	For each of the following statements, please tell me whether you disagree or agree.: In general, people in this community are able to get help for children who are abused, mistreated, or neglected.	Welfare	生活	脆弱性 (強靱性)	対応能力
56B	In my community, children who have a physical disability are generally able to get the support they need to succeed in life.	Welfare	生活	脆弱性 (強靱性)	対応能力
56C	In my community, children and adults who have mental or emotional problems are generally able to get the help they need to have a good life.	Welfare	生活	脆弱性 (強靱性)	対応能力
66A	In your experience, over the past 10 years, has there been any change in the severity of the following events in the area where you live? Have they become more severe, less severe, or stayed about the same?: Drought?	Living conditions, environmental quality and personal security	生活	脅威	
66B	In your experience, over the past 10 years, has there been any change in the severity of the following events in the area where you live? Have they become more severe, less severe, or stayed about the same?: Flooding	Living conditions, environmental quality and personal security	生活	脅威	
72A	How serious of a problem is pollution, such as the accumulation of trash or garbage, or damage to the quality of the air or water, in your community? Is it	Living conditions, environmental quality and personal security	生活	脅威	
85A	Please tell me whether you agree or disagree with the following statement: I feel strong ties with other Kenyans.	Community, civic engagement, and international outlook	尊厳	脆弱性 (強靱性)	対応能力
86A	How much do you trust each of the following types of people?: Other Kenyans?	Community, civic engagement, and international outlook	尊厳	脆弱性 (強靱性)	対応能力
86B	How much do you trust each of the following types of people?: Your relatives?	Community, civic engagement, and international outlook	尊厳	脆弱性 (強靱性)	対応能力
86C	How much do you trust each of the following types of people?: Your neighbours?	Community, civic engagement, and international outlook	尊厳	脆弱性 (強靱性)	対応能力
86D	How much do you trust each of the following types of people?: Other people you know?	Community, civic engagement, and international outlook	尊厳	脆弱性 (強靱性)	対応能力
86E	How much do you trust each of the following types of people?: People from other religions?	Community, civic engagement, and international outlook	尊厳	脆弱性 (強靱性)	対応能力
93A	Do you have a job that pays a cash income? [If yes, ask:] Is it full time or part time? [If no, ask:] Are you currently looking for a job?	Economy, jobs and work	生活	脆弱性 (強靱性)	対応能力
94	What is your highest level of education?	Education	生活	NA	